

総合的な学習の時間の視点から見た 修学旅行

埼玉県飯能市立南高麗中学校 校長 梅津稔

I はじめに

II 修学旅行の概要

- (1) 修学旅行のねらい
- (2) 取り組みのための3つの柱
- (3) 当日の日程
- (4) 修学旅行運営組織
- (5) 修学旅行までの取り組み

III 本校の「総合的な学習の時間」

- (1) ねらい
- (2) 授業の形式
- (3) 実施方法と時間

IV 総合的な学習との関連

V 考察と今後の課題

「総合的な学習」の視点から見た修学旅行

飯能市立南高麗中学校 梅津 穂

本校の修学旅行は全く一般的とも言える内容の修学旅行である。だから発表するに値しないものである。しかし、生徒たちは事前から、真面目に取り組み、事後には何らかの成長のあとが確かにある。生徒たちは成就感や達成感を感じている。そういう意味では単なる観光旅行にはなっていないと思っている。

体験学習にしても、こんなのは体験学習ではないとの思いもあるが、これからの課題として考えていきたい。

中身の質しい発表であるがお許し願いたい。

1 はじめに

本校学区は飯能市の南西部に位置し、西に秩父の峰を仰ぎ、南は東京都青梅市に接している。本校は飯能市の市街地には近いのだが、まわりの山々の緑が美しい山間部の学校である。

生徒数91名、教職員数19名（常勤県費教職員は11名）という小規模校である。生徒は明るく、素直で、生徒相互の人間関係、また生徒と教師の人間関係は大変好ましい状態にある。「あいさつ」や「時間を守ること」等基本的な生活習慣はしっかりしている面も多いが、学習習慣の確立は今一歩である。「学校が楽しい」という生徒が多く、不登校生徒はいない。

2 修学旅行の概要

(1) 修学旅行のねらい

- ①集団行動を通して、学級集団の和を深めるとともに、協力して規律ある行動をとれるようにする。
- ②京都、奈良の歴史を体感し、日本の歴史に対する理解を深める。
- ③生徒を中心に計画の立案、修学旅行の運営を行い、主体的に取り組む生徒の育成を図る。
- ④体験活動を通して、自分の生き方を考える。

(2) 取り組みのための3つの柱

①アイデアを生かす

- ア、「楽しい修学旅行にしよう」というテーマのもと、生徒自らが班編成を行なった。
- イ、実行委員会を中心に修学旅行の持ち物やマナーの決定を行なった。
- ウ、修学旅行の決まりについては、実行委員が学級から希望や要望を吸い上げ、学級会で決定した。

②主体的な活動の場を設定する

- ア、学級で話し合う場、班、係の活動、準備の場を確保した。
- イ、班ごとに事前学習を行い、発表会を実施し、質疑応答の場を設けた。
- ウ、3日間の班行動の計画（体験活動を含む）を話し合う班会議の場を設定し、班の団結とリーダーの育成を図り、さらに現地での3日間の班行動の実践で、班の団結とリーダーの育成を高めた。

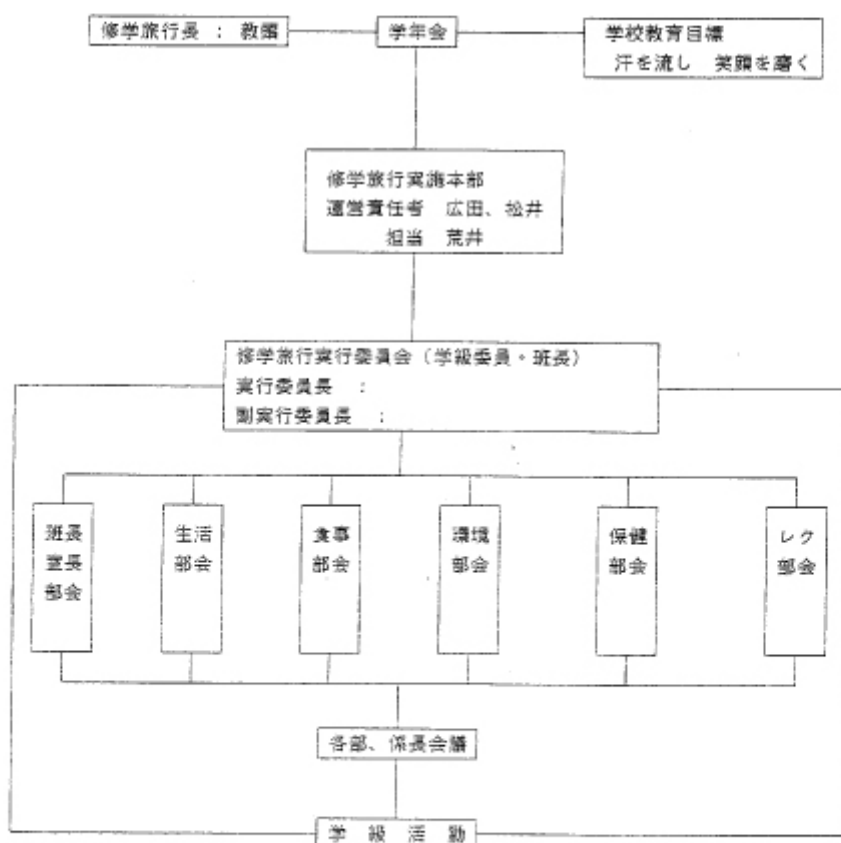
③意図的・計画的な評価を行なう

- ア、生徒一人ひとりの役割、仕事内容を明確にした。
- イ、実行委員会では分担ごとに責任者を決め、それぞれ準備計画を作成し、自己評価、相互評価を行なった。
- ウ、実行委員会が原案を提案し、学級でそれを繰り返し討議することで生徒の意識を高める。
- エ、修学旅行中は毎日業会を開き、班会議の結果をもとに1日の成果と反省を発表し、自己評価、相互評価を行なった。

(3) 当日の日程

5月21日(1日目)	5月22日(2日目)	5月23日(3日目)
5:00 飯能駅集合	8:00 班行動開始	8:30 班行動開始
5:05 出発式	終日班行動	半日班行動
5:21 飯能駅発	(体験活動)	14:30 京都駅集合
7:30 東京駅発	16:00 宿舎着	15:21 京都発
10:05 京都駅着	16:30 班長、室長会議	20:00 学校着
11:03 近鉄奈良駅着		
12:00 班別行動(タクシー)	18:30 京都タワーへ	
17:15 宿舎着	21:10 班会議	
17:40 班長、室長会議	21:30 全体会	
20:10 班会議		
20:30 全体会		

(4) 修学旅行運営組織



(5) 修学旅行までの取り組み(旅行・集団宿泊的行事)

①1年遠足(川越)

◎指導の工夫

ア、アイデアを生かす

- ・実行委員会を中心に遠足を創って行った。
(生徒の主体性を重視したいので、人数・男女比など限定をなくした。)
- ・学級の意見を取り上げて行った。
(少人数班にし、個人の意見が反映されやすいようにした。)
- ・生徒自ら考え、実行していくことを中心とした。
(選択の幅を多くした。班行動の範囲を生徒たちで決定した。)

イ、主体的な活動の場を設定する。

- ・遠足の目的を生徒自ら考え決めていった。
- ・実行委員会を公募し(人数は設定しない)、生徒の主体性を重視した。
- ・班行動を中心とするときは、場面ごと各班の分担を明確にした。
(少人数班なので一人一役となるようにした。)
- ・個人的な活動を中心とするときは、場面ごと各自の分担を明確にした。
(少人数班の特色を生かした。)
- ・場面によってリーダーを変え、育成を図った。
(少人数班としたので班の数が多くなり、班長も多くなった。)
- ・話し合い活動をする時間を確保し、自ら考え決定する場を保障した。
(予定を立てることの大切さを学ばせた。)
- ・生徒自ら考え決めたことにたいして責任を持たせるようにした。
(自ら決めた班行動の範囲について責任をもって調べさせた。)

ウ、意図的・計画的な支援や評価をする。

- ・生徒に今しなければならぬことを考えさせる指導をした。
(次回なにを行うかなども考えさせるため、時間を多くとった。)
- ・生徒が自ら活動したときは基本的にほめる指導をした。
- ・分からないことなどは、基本的に調べさせる指導をした。
(自分たちで学習することの大切さに気づかせた。)
- ・事前学習から事後学習まで、なるべく保護者に見せるようにしていった。
(保護者会などで)
- ・終了後、遠足個人新聞を発行し、自己評価、相互評価を行った。

②2年林間学校(尾瀬、2泊3日)

◎指導の工夫

ア、アイデアを生かす

- ・「林間学校を成功させよう」というテーマのもと、生徒自らが班編成を行った。
- ・実行委員会の権限を強化し、持ち物、ルール、小遣い等生徒中心に話し合った。

イ、主体的な活動の場を設定する

- ・班ごとに綿密な事前学習を行い、発表会を実施するなかで、全員が発表に参加し質疑応答の場を設けた。
- ・当日の班行動の際に、班長の権限を強化し、リーダーの育成を図った。
- ・班単位で、当日の成果と反省の会を実施し、班長が班員の意見を集約する中で、班のまとまりを強化し、班長の資質の向上を図った。

ウ、意図的・計画的な支援や評価を行う

- ・実行委員会が原案を提案し、学級がそれを討議するという話し合い活動を繰り返し、一人ひとりの意識を高めた。
- ・林間学校の2日目の夜、「意見感想発表会」を行い、自己評価、相互評価を行った。
- ・班の行動は班長を中心に班員に任せ、生徒の自立を促した。
(女子やペースの遅い生徒に合わせて行動することができ、全体として統率の取れた行動ができた。)
- ・終了後「林間学校個人新聞」を発行し、教室に掲示し、自己評価や相互評価を行った。

【課題と課題解決の結果をわかりやすく表現できたか。自分にとっての京都・奈良が見つかったか。】

・評価、反省

→→→総合（学校行事）

【積極的に取り組むことができたか。発見や新たな疑問は生まれたか。次の学習につながることは何か。】

5 考察と今後の課題（修学旅行と総合的な学習との連携は可能か）

「修学旅行と総合的な学習との連携は可能か」ということを考えて見たい。いろいろな意見があるようだが、もちろん、単に修学旅行を活動の内容を考えず、総合的な学習へ組み入れることは避けなければならない。そこで、少し整理してみたい。

総合的な学習の時間のねらいは

①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること

②学び方やものの考え方を身につけること、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育成すること、自己の生き方を考えることができるようにすることである。

特別活動と学校行事のねらいは

「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」

「学校行事においては、全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。」である。

簡単に言えば、学校行事は「集団活動」であり、総合的な学習は「個々の課題を追求する学習」である。となれば学校行事のなかに「個人の課題設定を取り入れ、個々に取り組む活動や学習（問題解決的な学習、調べ方や学び方の育成を図る学習、話し合いや討論の活動、自ら調べ・まとめ・発表する活動等）を保障できれば、総合的な学習の時間との連携は可能である。」と言う訳である。

体験活動も体験そのものだけでは総合的な学習の時間とはならないであろう。「なぜその体験をやるのか。」「その体験に対し、自分の課題は何か。」「その体験をすることと自分の生き方とはどう関わるのか。」「体験後、新たな課題が生まれたか。」等のことを考える必要がある。「教師から与えられたものを消化するだけのおわりでないよう」にしなければならない。

そのように考えていくと「総合的な学習は学校行事を豊かにする」と言える。そのような学校行事の取り組みをすべきであろう。

本校の修学旅行は総合的な学習の視点からみればまだまだ不十分である。そういうことでは豊かな学校行事となっていないと言える。今後の課題である。

【思い出の俳句（川柳）】

- ・青空に 浄瑠璃寺の 鐘響く
- ・池の中 うつる金閣 鯉の家
- ・哲学を しながら歩く 日陰道
- ・東大寺 風鈴なびく 5月かな
- ・枯山水 石をかぞえる 旅の人
- ・鹿の子も 夏の暑さに 木の下へ
- ・枯山水 お庭が涼し 夏さなか
- ・奈良公園 汗水ぬぐう 炎天下
- ・風鈴の 音色が響く 法隆寺
- ・金閣寺 鱗鮒が泳ぐ はずの池
- ・知恩院 涼しい廊下に ウグイスの声
- ・京都駅 帰るの惜しむ 初夏の風
- ・青葉の木 清水の舞台 風踊る
- ・清水の せせらぎ聞こえる 舞台まで
- ・麗しく 池にうつった 金閣寺
- ・庵安寺 青きもみじの 美しさ
- ・金閣寺 青葉が写る 金箔に
- ・金閣寺 太陽のように まぶしいな
- ・清水で 涼しみながら 見た京都
- ・ガラス館 作るのむずかし キーホルダー
- ・葉の緑 金閣寺より 光ってる
- ・仏像に 心とられ 夏の午後
- ・葉桜の アーチをくぐる 哲学の道
- ・東大寺 若葉が萌える 鹿もいる
- ・新緑の 古木と名所を 見て楽しい
- ・どうしよう なくなるえさと 鹿の頭
- ・暑し奈良 ぬげばいいのに 学らんを
- ・最終日 ララバイ京都 また今度

体験学習感想

- ・6班は清水坂ガラス館に行った。ほくはガラスを重ねて焼いてできるキーホルダーを作った。1時間ぐらいでできたけど、細かい作業だったので不器用な自分にはかなり、たいへんな作業だった。でもできてよかった。
- ・3日目の体験学習では清水坂ガラス館に行ってガラス細工をやってきた。ほくはガラスのキーホルダーを作った。ガラス細工は1つのガラスに、ほかの色のガラスをのっけたりして作った。いいキーホルダーが出来たのでよかった。
- ・体験学習はガラス館でペンダントトップをつくりました。つくるときは部品がこまかかったので大変でした。でも一応、完成してよかったです。
- ・扇子の絵付け。はじめは、とても不安でした。どうやって作るんだろう？難しいのかな？などと思っていました。けれど、やってみるとすごく、楽しかったです。すごく親切に教えてもらい、とても助かりました。絵を写してから色をつけました。色付けが一番むずかしかったです。あと1ヶ月ぐらいで届くのですごく楽しみです。
- ・私たちは八ツ橋を作りました。八ツ橋はノッキのにおいがすごいのですが、この日はきな粉でやりました。いちご味とココア味と普通のと3個作りました。楽しかったしおいしかったです。
- ・僕達4班は3日目に体験学習をやりました。その内容は扇子の絵付けの体験でした。店の人がやり方を教えてくれた後、何十枚か見本をもってきて、その中から選ぶような感じで作業しました。選んだらそれを本番用紙にうつして、それに色をぬりました。思ったよりも出来具合がよかったです。
- ・私たちの体験学習は八ツ橋作りです。まず消毒をして、エプロンつけて、粘土で、なんか作るときみたいな感じでこねて、3つに分けてのばして四角に切ってあんこを入れてできあがり。後はしょくべいを入れたり、ココアパウダーをいれたり3種類ありました。思っていたのとちょっと違っただけで楽しかったです。
- ・体験学習では、ガラスでフォトフレームを作りました。ガラスで作るのは大変で、1つ1つすごく細かくて、でも出来上がりがすごく楽しみです。ガラスはいろいろな色があって、1つ1つ違ってすべてがかわいく、ほしくなりました。また機会があったらつくりたいです。